

平和への願い

私達の平和とは一体何なんだろうか。考えてみれば、私にとっての平和はいつもそばにあり、当たり前のものでした。ですが私は、79年前の悲劇の物語をしったのです。

1945年8月6日。この日の昼に、私達が今暮らしている、都城市はアメリカ軍による空襲の被害を受けました。都城市上空にはアメリカ軍の飛行機が何機も現れ、一瞬のうちに多くの人の命を奪ってしまったのです。そう、これが、「都城大空襲」悲劇の物語の始まりなのです。なぜ、都城市に空襲が落とされたのか、私は疑問に思いました。当時の都城市には、工場や飛行場があったほか、軍隊の基地もあったため攻撃の標的となってしまったのです。

この空襲は4時間にわたり繰り返され、当時の都城市の人口13万人もの人が被害を受け、尊い命が奪われました。現在の都城市からは想像できないような悲惨なことが79年前、確かに起こったのです。私はこのことを知ったとき、戦争・空襲に対する激しい怒りと悲しさや醜さ、そして悲しみの感情で胸が一杯になりました。同時に、今平和に過ごせていることへのありがたさを知りました。

この都城大空襲のあった第二次世界大戦で被害を受けたのは、都城だけではありません。8月6日に広島、そして3日後の8月9日に長崎に原子爆弾が投下されました。「原子爆弾」私達は、この恐ろしさを知っています。ですが、79年前の人々は「原子爆弾」の存在すら知らなかったのです。「原子爆弾」は、一瞬で、すべてを飲み込むほどの威力を持ち、強力な放射線で多くの人々に、長く続く苦しみを与えたのです。放射線を受けた人は、原爆病と呼ばれる、放射線障害や白血病、癌などの病気を引き起こしました。その原爆で受けた影響は強く、現在でも残っており、未だに戦争・原爆の苦しみから開放されていない人もたくさんいます。

この戦争において日本は、多くの人が犠牲となり、尊い命や平和な日常が奪われた唯一の被爆国となってしまったのです。私達は、唯一の被爆国として戦争に対してどのように向き合っていくべきなのでしょう。

約一ヶ月前私は、学校の活動で老人ホームを訪れました。そこでは、沢山の方とお話をし、戦争を経験した皆さんは口を揃えて仰ったのです。「私は、隣で仲間がなくなる姿を目の当たりにしたが、何もできなかった。毎日が生と死の狭間であった。二度と戦争なんて起こしてほしくない。昔は、今のように勉強なんてできなかった。だから、今はしっかりと勉強をしてほしい。未来の平和を任せた・守ってくれ。」と。

私は、話を聞いているだけで、胸が張り裂けそうになりました。私達は、未来を任されたのです。私達は、二度と戦争を起こしてはいけないのです。戦争の利益って何だろう。戦争に利益など1つもないのです。

唯一の被爆国として、戦争や原子爆弾の恐ろしさ、79年前の悲劇を私達は伝えていかなければなりません。今ある平和が日常が「普通」だと思わずに、私達が普通に生活できているのは「特別」である。ということを忘れないで、1日1日を大切にしていきたいです。

そして、私達にとっては当たり前だけど、その当たり前のことを望んでいる人が世界にはたくさんいるということを忘れてはいけません。一人一人が、戦争に対して心から向き合ったとき、私は本当の平和につながるのだと思います。

最後になりましたが、あの日あったことを忘れず、これからは、唯一の被爆国として私達が原子爆弾の恐ろしさについて次なる世代に伝えていくこと、平和な世の中を築いていくことを誓い、戦争によって亡くなられた方々に心から御冥福をお祈りして、平和へのメッセージといたします。

都城市立姫城中学校

生徒代表 山元 優梨愛